

(様式5)

# 調査報告書

訪問調査日	平成20年7月16日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホームはなの街 (大阪府)
-------------------	----------------------

## 外部評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 西井 美智子
	氏名 岡村 美穂
事業所側対応者	職名 ホーム長
	氏名 中野 眞弓 ヒアリングを行った職員数 ( 2 )人

## 記入方法

「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。  
「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に をつけてください。

## 項目番号について

外部評価項目は30項目です。  
「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。  
「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

## 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

(別添 1)

[ 認知症対応型共同生活介護用 ]

# 1. 評価項目

作成日 平成20年9月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2770801823		
法人名	特定非営利活動法人共生社会ふれあい		
事業所名	グループホームはなの街		
所在地	大阪市東住吉区住道矢田1-6-10 (電話)06-6706-1515		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ 大阪支店		
所在地	大阪市中央区平野町3-1-9 KURAOビル4階		
訪問調査日	平成20年7月16日	評価確定日	平成20年10月2日

## 【情報提供票より】平成20年6月6日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・ <u>平成</u> 18年 3月 1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	17人 常勤 4人, 非常勤 13人, 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2階建ての 1~2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円	夕食 円 おやつ 円	
	または1日当たり 1,500円		

### (4) 利用者の概要(6月6日現在)

利用者人数	17名	男性 1名	女性 16名
要介護1	1	要介護2	3
要介護3	10	要介護4	1
要介護5	2	要支援2	
年齢	平均 84.7歳	最低 78歳	最高 93歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	矢田医療センター
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは平成18年3月設立の開設3年目のホームである。法人母体であった特別養護老人ホームから新たに独立するかたちで、地域に密着したサービスを提供することに努めている。独立後も入居者家族や地域との関わりは継続して積極的に強めており、かかりつけ医との連携や2名の常勤看護師を配置するなど、看護、介護両面から入居者をサポートしている。また、同区域内における他グループホームとの協調を目的に、連絡会を作り、相互に意見交換や人事交流を行う機会を持っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 職員研修等に関しては、職員の入れ替わりが激しいため、主に管理者が外部で講習を受け、その内容を必要に応じて伝達している。グループホームの連絡会を通じて相互に出向のようなかたちで人材交流を行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員の入れ替わりが激しいため、主に管理者により自己評価が行われている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 定期的に運営推進会議を開催し、入居者の家族や町会長、民生委員等が出席している。出席者から意見を聞き取り、サービスの質を向上させる取組の材料としている。また、敬老会や家族ボランティアの後には報告会や面談も行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族からの相談や意見、不満等はホーム長が受け付け、その都度解決するように努めている。家族もホームの取組には積極的に参加しており、家族の意見を反映させることのできる環境をつくっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域住民や民生委員等に対して、日常的に声かけを行っている。町会に加入し、町会長等にホームを訪問して中の様子を見てもらうよう取り組んでいる。町内の行事を把握すると共に、ホームの行事を地域の保育園や町内会等に伝え、交流を深める取り組みを行っている。

事業所名:

## 評価項目

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	以前の法人母体から独立する際に、管理者が中心となって作成したグループホームとしての理念を継続している。利用者一人一人を集団の中の一人ではなく、尊重すべき個人として、個別に支援を行っている。		回覧板等を活用して、地域住民や包括支援センター等にホームの情報を公開するなど試みている。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在は職員があまり定着しておらず、長期間継続している職員が居ないため、理念を定着させるとまでは至っていない。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民や民生委員等に対して、日常的に声かけを行っている。町会に加入し、町会長等にホームを訪問して中の様子を見てもらうよう取り組んでいる。町内の行事を把握すると共に、ホームの行事を地域の保育園や町内会等に伝え、交流を深める取り組みを行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を十分には活用しきれてはいない。		今後は評価の際に、入居者や家族の困っていることなども聞き取り、評価結果と共に検討して共に改善策を講じてゆきたい考えである。

事業所名:

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>定期的に運営推進会議を開催し、入居者の家族や町会長、民生委員等が出席している。出席者から意見を聞き取り、サービスの質を向上させる取組の材料としている。また、敬老会や家族ボランティアの後には報告会や面談も行っている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>区役所の家庭訪問担当者が月に1回来所し、昼食を入居者と一緒にホーム内でとってもらい、ホームの様子を見てもらうなどの取り組みを行っている。区役所や包括介護支援センターと連携して、退所後のサービスや空室状況等の情報を共有している。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>居室での入居者の様子は分単位で記入し、家族等も一目で一日の動きが分かるようにしている。また、月に1回は面会を行い、入居者の暮らしぶりや健康状態の報告、必要な連絡などを行い、金銭は随時家族から直接手渡しで預かるようにしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族からの相談や意見、不満等はホーム長が受け付け、その都度解決するように努めている。家族もホームの取組には積極的に参加しており、家族の意見を反映させることのできる環境をつくっている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>介護職員の異動が重なった時などは、管理者を中心に利用者へのフォローに配慮している。看護職員は常勤で2名おり、看護については職員の異動等が入居者へ与える影響をなるべく少なくするようにしている。</p>		<p>職員の定着率が高くなく、職員と利用者又は職員同士の間での馴染みの関係を築くのが難しいため、雇用状態等を含めて改善していきたいと考えている。</p>

事業所名:

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	有 ( 300,000 円 ) 無 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が外部の研修に参加しており、一般職員等には研修内容を伝えることがある。特徴として、研修の内容は看護に重点を置いている。		一般職員が外部の研修に参加することは職員の定着の関係から現在難しいとのことだが、内部研修等で外部で参加した研修内容等を職員全員で共有し、職員の意識とサービスの質の向上を図られることを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他のグループホームと合同で職員研修を行っており、またホーム同士で交互に出向させるようなかたちで職員交流を行っている。		今後は合同研修の内容をまとめて、ホーム内で活用されることを期待したい。また、他のサービスや包括介護支援センターとの連携もより深めることを検討している。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>(4) 利用者の概要 ( 6月6日現在 )</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所という形ではないが、居室内の床の色や畳、馴染みの家具などに配慮したり、モーニング喫茶などの習慣を継続させたりすることで、ホームに馴染んでいけるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や洗濯物の取り込み、たたみ等入居者が出来ることは積極的に取り組めるようにしている。昔の話に耳を傾けたり、調理の味付けについて食事中みんなで話し合ったりしている。		

事業所名:

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1.一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ホーム長が入居者に声かけを行い、本人の過ごしやすいように接するよう努めている。</p>		
<p><b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者や家族、関係者と話し合い、そこから収集した意向や意見を計画に反映させ、入居者ごとの個別具体的な介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状態をこまめに記録し、それに合わせて介護計画の見直しを行っており、その都度、ケアマネジャーである管理者が家族等と面会し、意見や要望を聞き取っている。介護記録は分単位で記録しており、入居者の細かな変化に対応して介護計画を変更している。</p>		
<p><b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>看護師2名で健康管理についてはしっかりとケアが出来ており、外出支援等も柔軟に対応している。</p>		

事業所名:

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の入居前からのかかりつけ医をそれぞれ把握し、その往診を受けることができる。医師とのカンファレンスも行われ、今後の状況や対応について話し合っている。往診では、なるべく入居者の負担を減らすよう心掛けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今後は入居前のかかりつけ医の往診を受けつつ、ターミナルを受け入れていく方針である。看護師資格者は管理者を含めて3人おり、職員も薬の変更や体調等に関して相談しやすい環境になっている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	入居者への声かけはあまり目立たないように、自然に行っている。入居者は、フロアに3カ所設置しているトイレのどこにでも、自由に、自発的に行くことができる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1階と2階で入居者の傾向が違い、一人一人がそれぞれのペースに合わせて過ごしている。		

事業所名:

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を注文して、職員やボランティアが調理を行っている。入居者は特に調理に参加していないが、ふりかけを自前で用意してもらうなど、それぞれの嗜好に合わせるようにしている。		1階と2階では料理の味付け等にばらつきがある。必要に応じて、高齢者向けの調理等についてホーム全体で検討されることを期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者は自立に近い状態での入浴が可能な方が多く、声かけや見守りを中心に支援が行われていた。あまり拒否されることもなく、スムーズに入浴されていた。		職員数が少ない等の理由で、日曜日や夜間の入浴支援は行っていないが、雇用体制等を工夫して、随時検討し続けることを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の希望等の聞き取りは管理者が行っている。入居者と共に花を育てるなどの取組を試みたが、成果としてはあまり上がっていない。体操への参加や音楽をかける等の楽しみごとへの職員の働きかけも十分ではない。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者個々の要望に応じて、日常的に外出の支援を行っている。喫茶店のモーニングサービスの利用など、入居者の習慣や状態に応じて検討している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵がかけられていない。		玄関が2重の扉になっているが、外側の扉が解錠され、内側の扉は施錠されている。玄関は広く、車椅子でも移動が容易なので、入居者が内側のドアを通行できるような取り組み等を検討していただきたい。



事業所名:

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は町会と協力して実施しており、入居者の安全を確保できるようにしている。		ホームの階段に多くの物品が置かれていたなど、ホーム内での災害対策は検討中で、倉庫を置いて物品の整理等を考えている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量は特に記録されていない。		高齢者向けのメニューを検討しつつ、入居者それぞれの大まかな栄養摂取総量や水分量を把握・確認されることを検討していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	タタミやカーペット等で空間に個性を持たせている。全体的に整理整頓されており、過剰な装飾等はなく、居心地良く過ごすことが出来る。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のカーペットの色を自由に選択できるようになっている等、入居者の好みを重視し、居心地良く過ごせるような工夫を行っている。		

は、重点項目。